令和４年4月１日

令和４年度　学校経営方針
「一人を大切に、共に学び合い、喜び合える児童の育成を目指して」

渋谷区立加計塚小学校
校　長　小山　努

１．　はじめに　（Management philosophy　学校経営の基本理念）

⑴　未来を生きる子どもたちに　ー求められる資質や能力ー
⑵　加計塚小 Ver　ー未来へ生きる子どもたちに身に付けさせたい資質や能力ー
⑶　渋谷区立加計塚小学校の特色と未来の学校ビジョン

２．　学校経営の目標（Mission　使命・責務）
⑴　スローガン「一人を大切にして、共に学び合い、喜び合える学校」
⑵　目標とする児童像　ー身に付けさせたい資質や能力ー

３．　学校経営の中心価値・規範（Core　Value　価値観・規範）

４．　学校運営上の指導の重点（Curriculum 目標を達成するための指導内容）

資料　「加計塚小学校　2022 未来の学校ビジョン」

１．　はじめに　（Management philosophy　学校経営の基本理念）

⑴　未来を生きる子どもたちに　ー求められる資質や能力ー

今、世界や国家、社会には、新型コロナウイルス感染防止をはじめとする健康や人権、平和、環境、貧困や開発、食糧問題など様々な問題が山積みです。それらの地球規模であり、また身近な問題に対して、2015 年国連サミットでは「持続可能な開発目標」が採択されました。「地球上の誰一人取り残さない」ことを誓い、2030 年までに持続可能でより良い世界を目指すための目標です。その目標達成への歩みは、新たな世界戦略、世界競争の時代を迎えています。

一方時代は「VUCA な時代」つまり先行き不透明で将来の予測が困難な時代を迎えているといわれています。そして、この「VUCA な時代」の未来を生きる子どもたちが、自他の幸福を実現しゆくためには、現実をよりよく変えていくために自分で目標を設定して、自己を振り返りながら責任をもって行動する資質や能力が求められています。また、その現実は複雑で多様な人々が絡み合っていることから、他者の考えを互いに聴き合ったり、自分の考えを互いに伝え合ったりして共有しながら、より一層相互に喜び合える価値を創造していく能力も求められているといわれています。

そのような未来を生きる子どもたちのために、我が国でも、新しい学習指導要領が本格実施されました。ここでも、それらの課題解決につながる価値観や行動力をもち、多様な他者と協働して社会を創造していく人材、つまり、「持続可能な社会づくりの担い手」を育むことが盛り込まれています。特に、新しい時代に必要となる資質・能力として、他者を身近に感じる想像力と智慧をもち、互いの多様性を認め合い、共に学び合い、共に喜び合う価値を創造できる「学びに向かう人間性」を育成することが重点とされています。

⑵　加計塚小 Ver　ー未来へ生きる子どもたちに身に付けさせたい資質や能力ー

本校では、令和３年度校内実践研究の自己評価として、「未来に生きる加計塚小児童に身に付けさせたい資質や能力」について、教員一人一人が振り返り、自らの授業を改善させるための指標として考えました。その上で、それぞれの考えを共有し、より一層折り合いをつけて、未来に生きる加計塚小児童に身に付けさせたい資質や能力を設定しました。それは、多様な人々がその違いを相互に大切にし合い、認め合いながら、共に「伝え合う力」を身に付けさせたいということです。

⑶　渋谷区立加計塚小学校の特色と未来の学校ビジョン

渋谷区教育委員会教育目標では、渋谷区の未来像「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」を受けて、「人を大切にし、互いの違いを認め高め合う人間」そして、「他者と協力して新しい価値を創造する人間」の育成を設定しています。加えて、「シブヤモデルー未来の学校に向けた学びの変革」を掲げ、安心・安全な環境で、多様な個が協働して新たな価値を創造する学校を目指し、家庭・地域が相互に連携・協力して支え合う社会の実現を目指しています。

一方、加計塚小学校は開校 103 年を迎え、その歴史と伝統は 1.1057 名の卒業生や保護者、地域の人々によって期待され支えられ創造されてきました。特に、時代の先端を走る先進的な企業や店舗、施設等が密集し、多様な人々が参集する活気ある恵比寿地域にあって、「未来をつくる学校」として、常に見守られ期待されています。その特色を十分に生かしながら、本校は以下３点の教育実践を重点としています。

① 主体的・対話的で深い学びを実現する ICT 機器を日常利用した授業改善および生活・校務改善

本校では、学校経営方針の重点として、タブレット端末等を「授業」や「生活」「校務」にて、日常使用を推進しようとしています。具体的には、成果指標「Surface 活用推進プラン」を策定し、タブレット端末を日常の学習・生活文具として使用することを通して、その達成を目指しています。「授業」においては、タブレット端末を一斉学習や個別学習はもちろん、相互の考えを共有した上で、対話的で深い学びを追究する協働学習において日常活用しています。教員は、その指導技術を日々開発し、相互に情報交換しながらその成果を実証し積み重ねています。「生活」では、教員と児童、児童相互、また教員と保護者等の情報交換において、アンケートや特別活動、行事連絡や日常の連絡帳機能として日常活用しています。また「校務」においても分掌毎の Teams チャネルを設定し、起案・連絡・意見交換を行うことで対面での会議等を大きく削減して効率化や働き方改革を推進しています。

タブレット端末の使用ルールについては「タブレットを使う時の３つの“た”」として、①大切に使おう②正しく使おう③たくさん使いましょう！と、シンプルに分かりやすく設定して利用頻度を増しています。その結果、「先生、タブレット使いますか」という質問がでる教師主導の教具から、学習者中心の文具、つまり「普段から普通に使っています」というように変容してきています。このように、児童が「安全」「責任」「相互尊重」の精神の基、ICT のよき使い手になるための教育「デジタル・シティズンシップ教育」を実践しているところです。ご家庭においても種々ご協力・ご指導をいただいていますこと感謝申し上げます。

そのタブレット端末の日常利用を目指す実践を通して、実証的な成果が挙げられています。特に、１年生担任からは、１年生の児童でも毎日タブレット端末を日常利用することで「児童の学習意欲や関心がワンランク向上する」「お互いの考えが“見える化”し共有することで、お互いに学び合い、分かり合う学習をしている」「さらに、お互いの考えから、深め合ったり、楽しみ合ったりすることができる」「書字が苦手であったり、情緒に課題があったり特別に支援を要する児童も、学習活動にすすんで参加することができ、知識を理解したり、学習を楽しんだりすることができる」という成果が実証されています。

このことから、今年度は、個々の教員が日々開発している指導技術の成果や児童が日常利用しているリズムを止めることなく継承し、タブレットの利用頻度や時間・用途をさらに日常的に増やしていくことは必須です。「教師主導の教具的活用」から「学習者中心の文具的活用」つまり「普段から普通に使っています」という段階へのステップアップを全校で共有することで、学習・生活の成果を向上させていきます。

② 郷土から世界へ！　探究課題解決の資質・能力の育成を目指す「シブヤ科」の実践

渋谷区立小学校では、総合的な学習の時間に「シブヤ科（年間 20 時間以上）」の学習を行っています。シブヤ科は、私たちの住む郷土の歴史や伝統・文化などの視点から、各学校・学年でテーマを設定した上で、児童自ら課題を設定し情報を集め、整理・分析してまとめ・表現し、発信していきます。この探究的な学習を通して、渋谷区への誇りと愛着をもつ「渋谷シティプライド」の醸成を図ります。また、渋谷区の地域社会へ主体的に参画する力や、多様な人々と協働する力を培い、社会をよりよくできる行動力を伴った未来の渋谷の創り手を育成します。

本校の「シブヤ科」の特色は、地域学校協働本部の高橋賢治先生がファシリテーターとして調整していただき、恵比寿地域の企業や店舗、団体、渋谷区役所の他、町会、保護者の皆様が、児童と共に協働して学習に協力・参画してくださることです。児童はその「本物」と関り、「本物」を学び、「本物」と共に、児童相互に学び合い深め合い探求課題を解決し価値を創造する「探求課題解決型学習」を展開しています。そして、その成果を内外に発表して、相手に喜んでいただいたり、自分たちも相手の役に立ち、喜び合ったりする体験を積み重ねています。

③ 多様性を認め合う人権感覚の育成

本校では「学校いじめ対策基本方針」を令和３年度末に改訂し内外に公開しています。ここでは、自他ともに大切にし合う知識や態度・価値観、コミュニケーション能力の育成を目指し、道徳授業の実践、学級毎の児童発の支持的風土を創る取組を通して、いじめの未然防止をすすめています。重ねて、いじめの早期発見、早期解決に対しても、教員研修や月１回いじめ対策委員会での情報交換、アンケートの取組など、「学校いじめ対策基本方針」に沿って教職員一同心を合わせ取り組んでいます。また、人権課題「障害者」についての理解教育を通して、インクルーシブ教育を実践しています。

２．　学校経営の目標（Mission　使命・責務）

学校は「児童一人の幸福を実現する」ためにあります。だから、互いの違いや多様性を大切にし合い、「誰一人も残さない」で互いに学び合い、そのことを喜び合うことを創造する価値をもつ児童の育成を最大目的として、以下の資質や能力の育成を目指します。

⑴　スローガン「一人を大切にして、共に学び合い、喜び合える学校」

⑵　目標とする児童像　―身に付けさせたい資質や能力―

・聴き合える力をもつ子ども

・伝え合える力をもつ子ども　※令和４年度校内研究主題

・学び合える力をもつ子ども

・深め合える力をもつ子ども

・喜び合える力をもつ子ども

日々の学習や生活場面において、多様な児童相互、教員と児童、児童と保護者・地域の人が「**聴き合う」「伝え合う」「学び合う」力を磨きながら、**自分たちで「できた」「これいいね」と「**深め合える」**学習活動を増やしていきます。そして、学んだ成果を相手に喜んでもらったり、ほめてもらったりして互いに「**喜び合える」**価値を創造できる児童の育成を目指します。

３．　教職員の価値・規範（Core　Value　価値観・規範）

以上の、使命・責務を実現するために、まずは５つの価値・規範を基調において、教育活動を展開して行きます。つまり、私たち教職員が教育活動の中で「これだけは、共有したい」「迷ったらここを判断基準にしよう」「これは今最優先しよう」という、大切にしたい価値や規範となります。

⑴　「生命」　を、厳然と護る。

⑵　「人権」　を、どこまでも大切にする

⑶　「安全」　を、前前（さきざき）に備える

⑷　「健康」　を、共々に気遣う

４．　学校運営上の指導の重点（Vision　目標を達成するための指導内容）

「２（2）目標とする児童像」において前述したように、多様な児童相互、教員と児童、児童と保護者・地域の人が、聴き合い、話し合い、学び合いながら、自分たちで「できた」「これいいね」と価値を導き出し創造する学習体験を増やしていきたいです。そして、受け身で学ぶだけでなく、学んだ成果を伝え合うことで、相手に喜んでもらい、還って褒めてもらう喜びに価値を見出す児童の育成を目指したいと考えています。

以下の内容は、令和４年度に取り組む教育課程の重点です。

⑴ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の日常化。
取組指標：「聴く」「つなぐ」「もどす」対話型授業メソッドの実践

⑵ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の日常化。
取組指標：タブレット端末を日常使用した、互いの考えを共有し深め合う協働学習の実践

⑶ タブレット端末を学習者中心に日常使用する学習・生活スタイルの習熟を目指すデジタルシティズンシップ教育の推進
取組指標：「加計塚小 Surface 活用推進プラン」の実践・継承

⑷ 郷土の特色を生かした探求課題解決型学習「シブヤ科」の実践
取組指標：地域、企業など外部人材と関わり合い、学び合い、喜び合える協働学習の実践

⑸ 多様性を認め合い、自他ともに大切にする人権感覚の育成
取組指標：学校いじめ基本方針(改訂版)の協働実践でいじめの未然防止、早期発見・解決

⑹ 多様性を認め合い、自他ともに大切にする人権感覚の育成
取組指標：「他者と意見を交換し、考え、議論する」道徳授業の実践。

⑺ 多様性を認め合い、自他ともに大切にする人権感覚の育成
取組指標：支持的風土のある学級経営を目指す児童発の実践

⑻ 多様性を認め合い、自他ともに大切にする人権感覚の育成
取組指標：人権課題「障害者」理解教育授業やインクルーシブ教育の実践

⑼ 多様性を認め合い、自他ともに大切にする人権感覚の育成
取組指標：特別支援教室拠点校として、特別に支援を要する児童への組織的で細やかな支援

⑽ 自他共の安全・健康を護り合う資質・能力の育成
取組指標：新型コロナウイルス感染症予防を目指す、「加計塚小感染予防ルール」の実践

⑾ 自他共の安全・健康を護り合う資質・能力の育成
取組指標：生活・交通・災害に関する「安全指導」「安全管理」「組織活動」で絶対無事故